(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-24978
(P2019-24978A)
(43)公開日　平成31年2月21日(2019.2.21)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47H 1/04	(2006.01)	A47H	1/04	Z	2E182

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 9 頁）

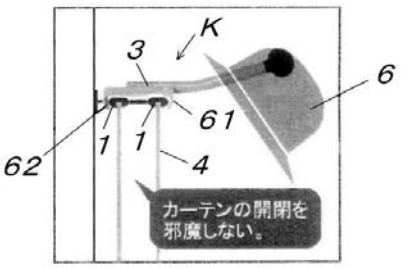
(21)出願番号　特願2017-147331 (P2017-147331)
(22)出願日　平成29年7月31日 (2017.7.31)

(71)出願人　390020019
レック株式会社
東京都中央区日本橋浜町三丁目１５番１号
(74)代理人　100092680
弁理士　入江　一郎
(72)発明者　近　藤　伴
東京都中央区日本橋浜町三丁目１５番１号
レック株式会社内

Ｆターム(参考)　2E182 AA01　AB00　AC01　DE01　DF22
EE01

(54)【発明の名称】カーテンレール用ブラケット及びカーテンレール用ブラケットの取り付け方法

(57)【要約】
【課題】
本発明の目的は、カーテンレールを利用したカーテンレール用ブラケットを提供するものである。
【解決手段】
カーテンレール用ブラケットＫは、２本のカーテンレール１、１を跨いでカーテンレール１、１に係止する係止部を有する本体２と、この本体２に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部３とを備え、被係止部３がカーテン４より前方か、又は、被係止部３がカーテン４より前であってカーテン４の上方に位置するか、又は、被係止部３の取り付け部位が２本のカーテンレール１、１の間であって、カーテンレール１、１の端部に位置しているものである。
【選択図】図１１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
２本のカーテンレールを跨いで前記カーテンレールに係止する係止部を有する本体と、
この本体に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部とを備え、
前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置している
ことを特徴とするカーテンレール用ブラケット。
【請求項２】
スライド自在な移動体と、この移動体の移動を案内する案内通路を有する案内体と、この案内体に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部と、一端を前記移動体に、他端を前記案内体に、それぞれ当接する弾性部材と、前記移動体に垂下する第１の挟持部材と、前記案内体に第２の挟持部材とを有したカーテンレール用ブラケットを備え、
前記弾性部材を圧縮する方向に前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材との間を押し広げるように移動させ、２本のカーテンレールを跨いでカーテンレールに前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材とを当接して前記カーテンレール用ブラケットを取り付けると共に、前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置している
ことを特徴とするカーテンレール用ブラケットの取り付け方法。
【請求項３】
本体は、スライド自在な移動体と、この移動体の移動を案内する案内通路を有する案内体とを有し、
前記移動体は、前記移動体より垂下する移動体垂下部と、案内体にあって、前記移動体垂下部と対向する案内体対向部とを有し、弾性部材を前記移動体垂下部と前記案内体対向部とに当接するように設け、
カーテンレールに係止する係止部は、前記移動体に垂下するように設けられた第１の挟持部材と、前記案内体に垂下するように設けられた第２の挟持部材とを有し、
前記弾性部材を圧縮する方向に前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材との間を押し広げて、カーテンレールに取り付ける
ことを特徴とする請求項１記載のカーテンレール用ブラケット。
【請求項４】
被係止部は本体よりカーテンレールが設置されている室内側の上方に向かって突出する突出部を形成している
ことを特徴とする請求項３記載のカーテンレール用ブラケット。
【請求項５】
被係止部は回動自在に垂下されたフック状の被係止部であり、
このフック状の被係止部は、２本のカーテンレールの間であって下方に位置している
ことを特徴とする請求項３記載のカーテンレール用ブラケット。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、カーテンレール用ブラケット及びカーテンレール用ブラケットの取り付け方法に係り、特に、カーテンレールを利用してカーテンレール用ブラケットを取り付けることができるカーテンレール用ブラケット及びカーテンレール用ブラケットの取り付け方法に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、帽子、バッグ等をフックに掛けたい場合がある。

【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、時として、例えば、室内に帽子、バッグ、コート、ハンガー等を引っかけるフックがない場合があり、新たに、フックを壁等に設けると、壁に傷が生じてしまうという問題点が生じた。
【０００４】
本発明は、上記問題点を考慮してなされたもので、室内にあるカーテンレールに着目してなされたカーテンレール用ブラケット及びカーテンレール用ブラケットの取り付け方法を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
請求項１記載のカーテンレール用ブラケットは、２本のカーテンレールを跨いで前記カーテンレールに係止する係止部を有する本体と、この本体に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部とを備え、前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置しているものである。
【０００６】
また、請求項２記載のカーテンレール用ブラケットの取り付け方法は、スライド自在な移動体と、この移動体の移動を案内する案内通路を有する案内体と、この案内体に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部と、一端を前記移動体に、他端を前記案内体に、それぞれ当接する弾性部材と、前記移動体に垂下する第１の挟持部材と、前記案内体に第２の挟持部材とを有したカーテンレール用ブラケットを備え、前記弾性部材を圧縮する方向に前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材との間を押し広げるように移動させ、２本のカーテンレールを跨いでカーテンレールに前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材とを当接して前記カーテンレール用ブラケットを取り付けると共に、前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置しているものである。
【０００７】
また、請求項３記載のカーテンレール用ブラケットは、請求項１記載のカーテンレール用ブラケットにおいて、本体は、スライド自在な移動体と、この移動体の移動を案内する案内通路を有する案内体とを有し、前記移動体は、前記移動体より垂下する移動体垂下部と、案内体にあって、前記移動体垂下部と対向する案内体対向部とを有し、弾性部材を前記移動体垂下部と前記案内体対向部とに当接するように設け、カーテンレールに係止する係止部は、前記移動体に垂下するように設けられた第１の挟持部材と、前記案内体に垂下するように設けられた第２の挟持部材とを有し、前記弾性部材を圧縮する方向に前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材との間を押し広げて、カーテンレールに取り付けるものである。
【０００８】
また、請求項４記載のカーテンレール用ブラケットは、請求項３記載のカーテンレール用ブラケットにおいて、被係止部は本体よりカーテンレールが設置されている室内側の上方に向かって突出する突出部を形成しているものである。
【０００９】
また、請求項５記載のカーテンレール用ブラケットは、請求項３記載のカーテンレール用ブラケットにおいて、被係止部は回動自在に垂下されたフック状の被係止部であり、このフック状の被係止部は、２本のカーテンレールの間であって下方に位置しているものである。
【発明の効果】

【００１０】
請求項１記載のカーテンレール用ブラケットによれば、２本のカーテンレールを跨いで前記カーテンレールに係止する係止部を有する本体と、この本体に取り付けられ、被係止物を係止する被係止部とを備え、前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置しているため、カーテンの開閉に支障を来すことなく、カーテンレールを利用してカーテンレール用ブラケットを取り付けることができ、被係止部に、例えば、帽子、バッグ、コート、ハンガー等を係止させることができる。
【００１１】
また、請求項２記載のカーテンレール用ブラケットの取り付け方法によれば、弾性部材を圧縮する方向に第１の挟持部材と第２の挟持部材との間を押し広げて、２本のカーテンレールを跨いでカーテンレールに前記第１の挟持部材と前記第２の挟持部材とを当接して取り付けると共に、前記被係止部がカーテンより前方か、又は、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するか、又は、前記被係止部の取り付け部位が前記２本のカーテンレールの間であって、前記カーテンレールの端部に位置しているため、カーテンの開閉に支障を来すことなく、カーテンレールを利用してカーテンレール用ブラケットを取り付けることができ、被係止部に、例えば、帽子、バッグ、コート、ハンガー等を係止させることができる。
【００１２】
また、請求項３記載のカーテンレール用ブラケットによれば、上述した請求項１記載の発明の効果に加え、弾性部材を圧縮する方向に第１の挟持部材と第２の挟持部材との間を押し広げて、カーテンレールに取り付けるため、弾性部材の弾性力を利用してカーテンレールに着脱自在であって、しかも、確実に取り付け状態を保持することができる。
【００１３】
また、請求項４記載のカーテンレール用ブラケットによれば、上述した請求項３記載の発明の効果に加え、被係止部は本体よりカーテンレールが設置されている室内側の上方に向かって突出する突出部を形成しているため、カーテンレールが設置されている室内側の上方空間を利用して、帽子等を係止させる突出部を取り付けることができる。
【００１４】
また、請求項５記載のカーテンレール用ブラケットによれば、上述した請求項３記載の発明の効果に加え、フック状の被係止部は、２本のカーテンレールの間であって下方に位置しているため、２本のカーテンレールの間の下方空間を利用して、フック状の被係止部を取り付けることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】図１は、本発明の一実施例のカーテンレール用ブラケットの概略的斜視図である。
【図２】図２は、図１のカーテンレール用ブラケットの概略的正面図である。
【図３】図３は、図１のカーテンレール用ブラケットの移動体が弾性部材を圧縮する方向に移動した状態を下方より見た概略的図である。
【図４】図４は、図３の一部を拡大して示す一部拡大図である。
【図５】図５は、図２の概略的左側面図である。
【図６】図６は、図５のＡ－Ａの概略的断面図である。
【図７】図７は、図１のカーテンレール用ブラケットと異なる他の実施例のカーテンレール用ブラケットの概略的斜視面である。
【図８】図８は、図７のカーテンレール用ブラケットの概略的正面図である。
【図９】図９は、図８のＢ－Ｂの概略的断面図である。
【図１０】図１０は、図７のカーテンレール用ブラケットの取付状態を下方より見た概略的斜視図である。

【図１１】図１１は、図１０の使用状態の概略的図である。
【図１２】図１２（ａ）は、図７のカーテンレール用ブラケットと異なる他の実施例のカーテンレール用ブラケットの概略的側面図であり、図１２（ｂ）は、図１２（ａ）のカーテンレール用ブラケットと異なる他の実施例のカーテンレール用ブラケットの概略的側面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
本発明の一実施例のカーテンレール用ブラケットを図面（図１乃至図６）を参照して説明する。
図１に示すＫは、カーテンレール１、１に取り付けられる支持具であるカーテンレール用ブラケットである。
このカーテンレール用ブラケットＫは、図１に示すように、２本のカーテンレール１、１を跨いでカーテンレール１、１に係止する係止部を有する本体２と、この本体２に取り付けられ、被係止物（例えば、図１１記載の帽子６、図示しないバッグ、コート、ハンガー等）を係止する被係止部３とを備えている。
【００１７】
被係止部３の取り付け部位が２本のカーテンレール１、１の間であって、カーテンレール１、１の端部に位置しているか（図１）、又は、説明を後述するが、被係止部３がカーテン４より前方か、又は、被係止部３がカーテン４より前であってカーテン４の上方に位置するか（図１１）となっている。
【００１８】
従って、上述したカーテンレール用ブラケットＫによれば、カーテンレール１、１を利用してカーテンレール用ブラケットＫを取り付けることができ、被係止部３に帽子６、図示しないバッグ、コート、ハンガー等を係止させることができる。
【００１９】
上述した本体２は、スライド自在な移動体２１と、この移動体２１の移動を案内する案内通路Ｐを有する案内体２２とを有し（図３）、移動体２１は、移動体２１より垂下する移動体垂下部２１ａと、案内体２２にあって、移動体垂下部２１ａと対向する案内体対向部２２ａとを有し、弾性部材５を移動体垂下部２１ａと案内体対向部２２ａとに当接するように設けている。つまり、弾性部材５の一端を移動体２１に、弾性部材５の他端を案内体２２に、それぞれ当接するように設けている。
移動体２１が弾性部材５の付勢力に抗するように移動すると、弾性部材５が元の長さに戻るように移動体２１が反力を受けることとなる。
カーテンレール１、１に係止する係止部は、移動体２１に垂下するように設けられた第１の挟持部材６１と、案内体２２に垂下するように設けられた第２の挟持部材６２とを有し、弾性部材５を圧縮する方向（図２の移動体２１の状態から図３の移動体２１の状態）に第１の挟持部材６１と第２の挟持部材６２との間を押し広げて、カーテンレール１、１に取り付けることができる。
つまり、カーテンレール用ブラケットＫをカーテンレール１、１に取り付けるには（カーテンレール用ブラケットの取り付け方法）、弾性部材５を圧縮する方向（図２の移動体２１の状態から図３の移動体２１の状態）に第１の挟持部材６１と第２の挟持部材６２との間を押し広げるように移動させ、２本のカーテンレール１、１を跨いでカーテンレール１、１に第１の挟持部材６１と第２の挟持部材６２とを当接してカーテンレール用ブラケットＫを取り付けると共に、被係止部３の取り付け部位が２本のカーテンレール１、１の間であって、カーテンレール１、１の端部に位置しているか（図１）、又は、説明を後述するが、前記被係止部がカーテンより前であって前記カーテンの上方に位置するように設置するものである。
なお、カーテンレール用ブラケットＫは、弾性部材５の弾性力を利用してカーテンレール１、１に着脱自在であって、しかも、確実に取り付け状態を保持することができる。
【００２０】

また、被係止部３は、図６に示すように、回動自在に垂下されたフック状の被係止部であり、このフック状の被係止部３は、２本のカーテンレール１、１の間であって下方に位置している。

そのため、２本のカーテンレール１、１の間の下方空間を利用して、フック状の被係止部３を取り付け、被係止部３に、例えば、図示しないバッグ等を係止させることができる。

【００２１】

次に、上述した実施例と異なる他の実施例のカーテンレール用ブラケットＫを図７乃至図１１を参照して以下説明する。なお、上述した実施例と同一部分に同一符号を付してその説明を一部省略する。

上述した実施例の被係止部３は、図６に示すように、回動自在に垂下されたフック状の被係止部であり、このフック状の被係止部３は、２本のカーテンレール１、１の間であって下方に位置しているが、本実施例の被係止部３は、図１１に示すように、本体２よりカーテンレール１、１が設置されている室内側の上方に向かって突出する突出部を形成している。

そのため、カーテンレール１、１が設置されている室内側の上方空間を利用して、帽子６等を係止させる突出部を取り付けることができる。

【００２２】

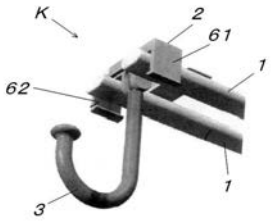
被係止部３は、図７記載のものに限らず、図１２（ａ）（ｂ）に示すように、第１の挟持部材６１に被係止部３１［図１２（ａ）］、第１の挟持部材６１に被係止部３３［図１２（ｂ）］を設けるようにしても良い。

【符号の説明】

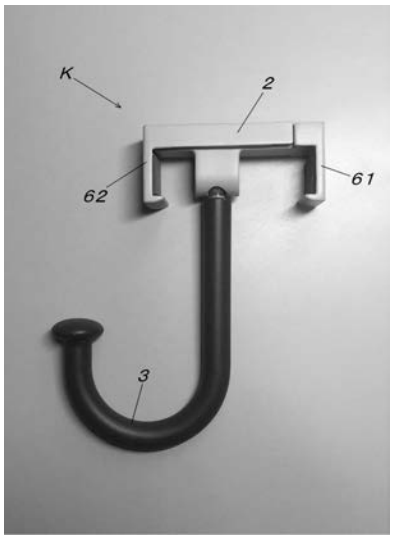
【００２３】

Ｋ　　カーテンレール用ブラケット
１　　カーテンレール
２　　本体
３　　被係止部
４　　カーテン
５　　弾性部材
６　　帽子（被係止物）

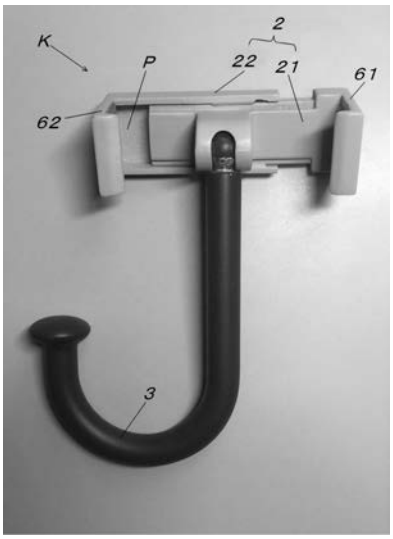
【図１】



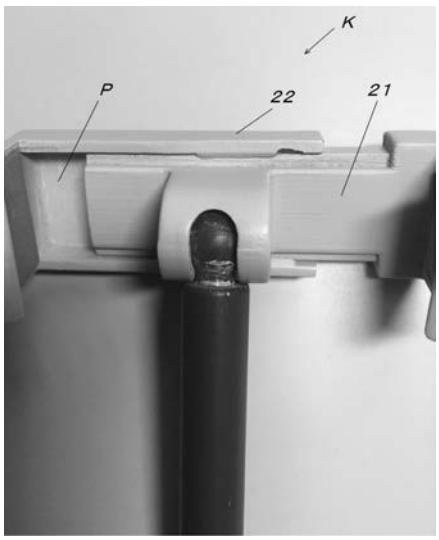
【図２】



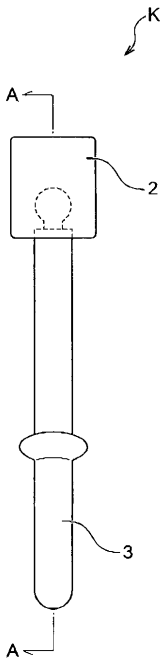
【図３】



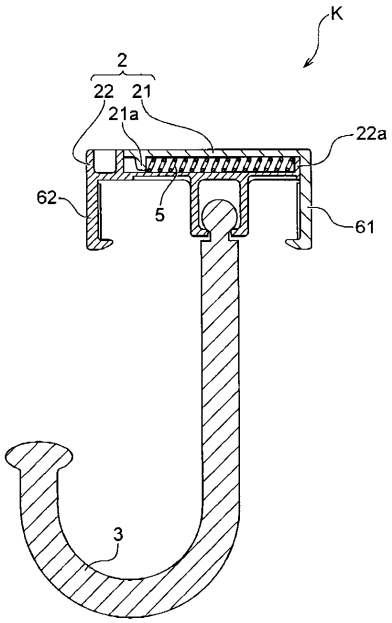
【図４】



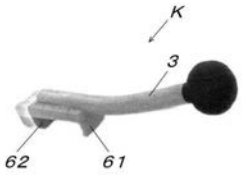
【図５】



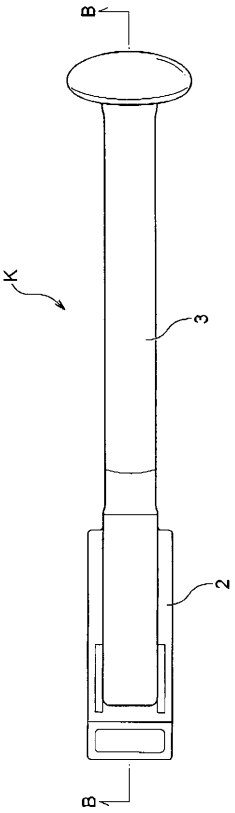
【図６】



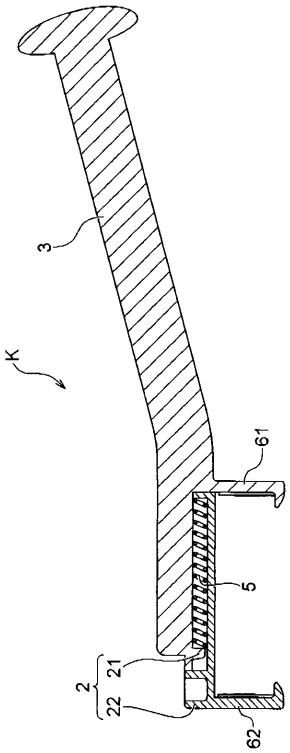
【図７】



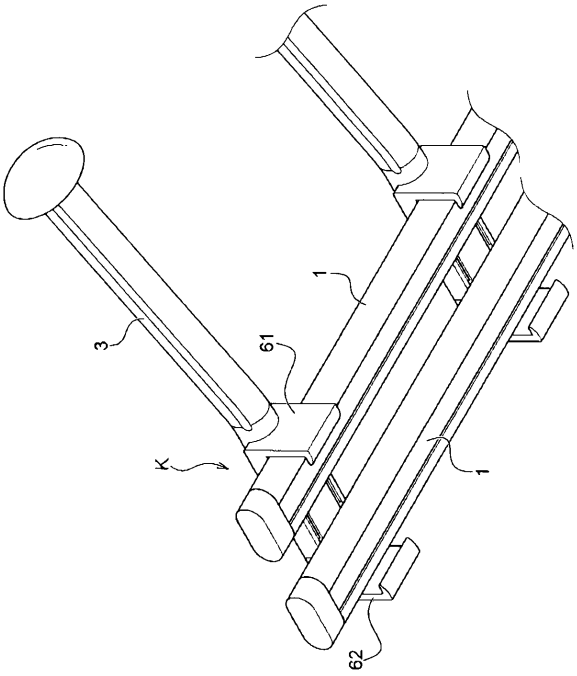
【図８】



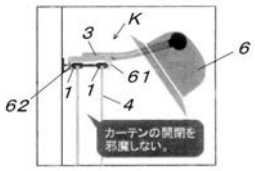
【図９】



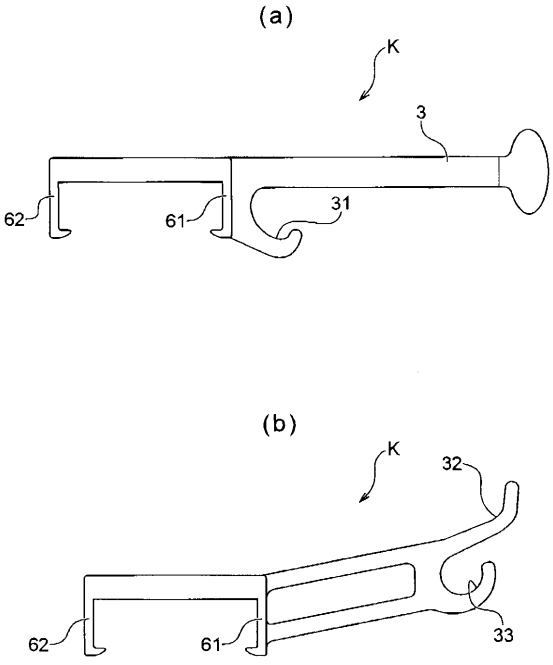
【図１０】


3
61
1
K
1
62

【図１１】


3
K
6
61
1
1
62
4
カーテンの開閉を
邪魔しない。

【図１２】


(a)
K
3
62
61
31
(b)
K
32
62
61
33